

(仮称) 新展示場整備基本計画
【概要版】

令和4年3月

札幌市

(仮称) 新展示場整備基本計画

【概要版】

目次

| | |
|----------------------------------|----|
| はじめに | 1 |
| 1 計画の目的及び位置づけ..... | 1 |
| 2 本事業に関連する SDGs の目標・ターゲット..... | 1 |
| 第1章 国内における展示会産業の動向及び展示施設の現状..... | 2 |
| 1 国内における展示会産業の動向..... | 2 |
| 2 全国の展示施設の現状..... | 3 |
| 第2章 札幌市における展示施設の現状と課題..... | 4 |
| 1 アクセスサッポロの現状..... | 4 |
| 2 札幌市の展示機能を持つ施設の現況..... | 5 |
| 3 アクセスサッポロに対する主催者需要..... | 6 |
| 4 新たな展示場整備の必要性..... | 7 |
| 第3章 施設の整備方針..... | 8 |
| 1 施設のコンセプト..... | 8 |
| 2 施設規模 | 9 |
| 第4章 整備予定地 | 10 |
| 1 候補地の検証 | 10 |
| 2 整備候補地の評価及び選定..... | 10 |
| 第5章 施設計画 | 11 |
| 1 諸室構成及び諸室整備計画..... | 11 |
| 2 配置計画 | 11 |
| 3 動線・交通計画 | 11 |
| 第6章 事業手法及び概算建設工事費..... | 12 |
| 1 事業手法の検討 | 12 |
| 2 概算建設工事費 | 13 |
| 3 想定される運営収支..... | 13 |
| 4 定量評価 (VFMの算定) | 13 |
| 5 定性評価 | 13 |
| 6 総合評価 | 14 |
| 第7章 施設整備の効果..... | 14 |
| 第8章 事業スケジュール..... | 14 |

はじめに

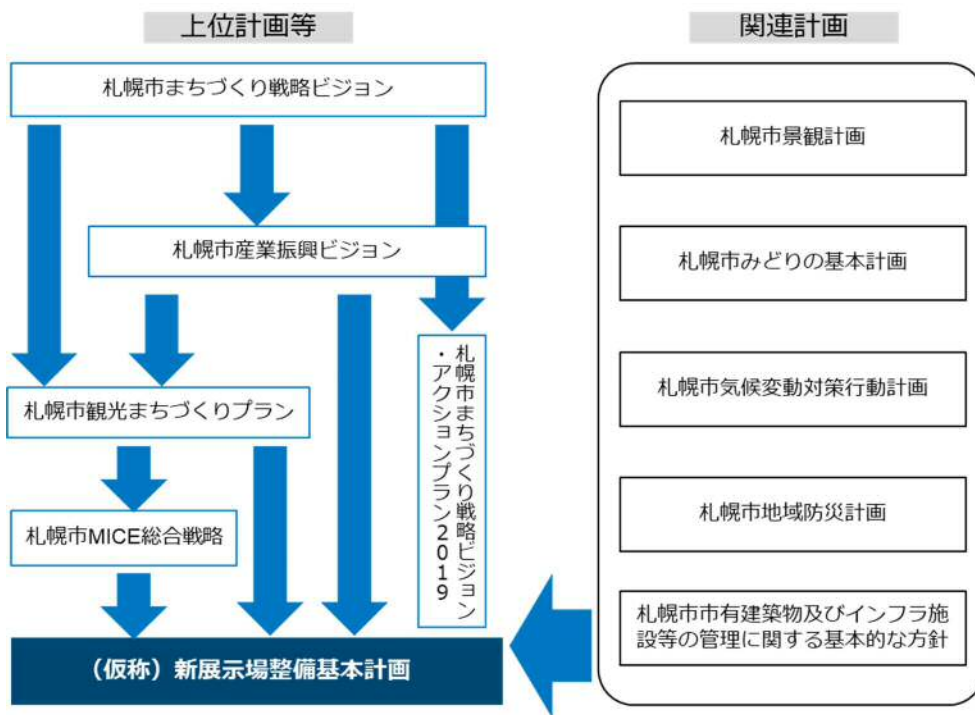
1 計画の目的及び位置づけ

【目的】

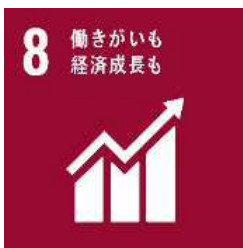
この基本計画は、全国的な展示会産業の動向や札幌市の展示施設の利用状況等を踏まえ、札幌市が抱える課題を明らかにしたうえで、新たな展示場の規模や機能、整備や運営手法に関する基本的な事項を示すものです。

策定にあたっては、新展示場が北海道・札幌の経済成長を力強く牽引する新たな産業交流拠点となることを目指し、市内における催事主催者の幅広い需要に対応するとともに、経済活性化に資する大規模な展示会の開催を視野に入れ、必要な規模や機能を検討することとします。

図表 1 本計画の位置付け



2 本事業に関連するSDGsの目標・ターゲット



第1章 国内における展示会産業の動向及び展示施設の現状

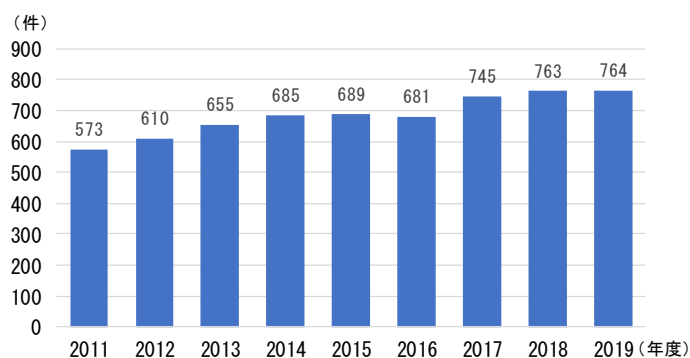
1 国内における展示会産業の動向

(1) 開催件数の推移

国内における展示会（個別企業の展示会や即売会を除く）の開催件数は、全体として緩やかな増加傾向にあり、2019年度には年間764件が開催されています。

近年はIT分野を中心とする新産業の創出を背景に、新規の展示会が数多く開催されており、今後も成長が続くと考えられています。

図表 2 全国の展示会の開催件数の推移

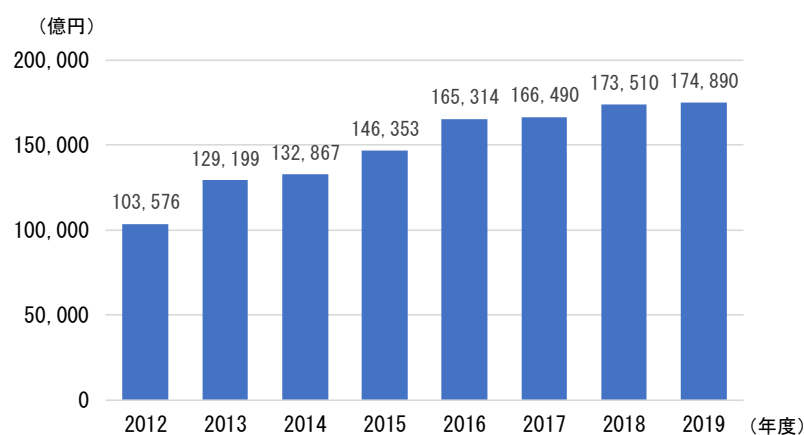


出典：見本市展示会通信（㈱ピーオーピー）より作成

(2) 全国のイベント消費規模

展示会を含めた国内イベント全体の消費規模は、2019年度実績で約17兆5千億円と、7年連続増加しています。

図表 3 全国のイベント消費規模の推移



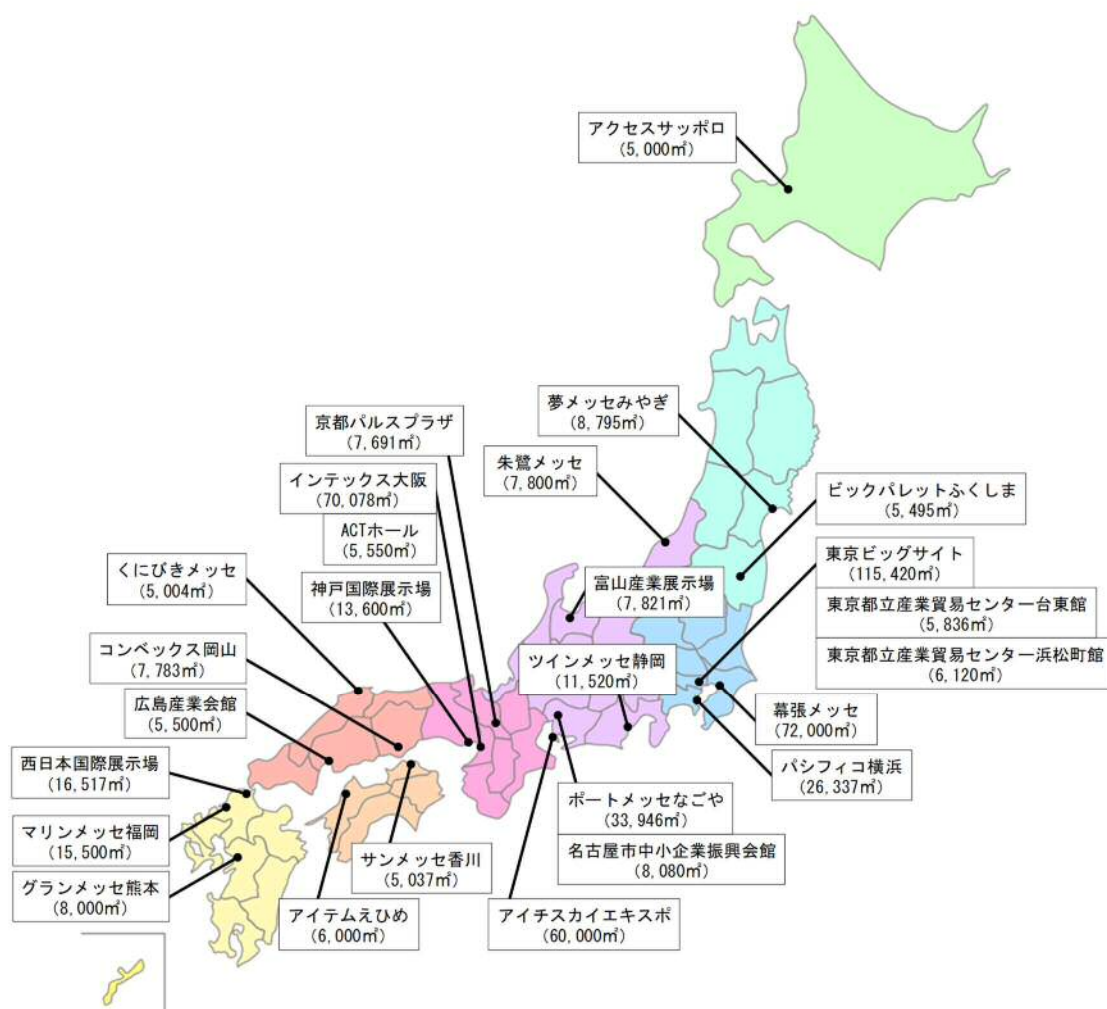
出典：イベント消費規模統計推計書（一般社団法人日本イベント産業振興協会）より作成

2 全国の展示施設の現状

(1) 全国の展示施設の整備状況

全国には、アクセスサッポロの展示面積（5,000㎡）以上の大規模な展示施設（アリーナは除く）が各地に整備されています。特に首都圏、大阪圏、名古屋圏、福岡圏には複数の大規模施設が存在しています。2021年4月には、マリンメッセ福岡が5,000㎡の展示場を増築したほか、現在、ポートメッセなごやの新第1号館の建替計画が進むなど、各地で大規模展示施設等の建設が進んでいます。

図表 4 全国の主な展示施設



※全国展示場連絡協議会に加盟する5,000㎡以上の展示面積を有する施設を記載

第2章 札幌市における展示施設の現状と課題

1 アクセサッポロの現状

(1) アクセサッポロの利用状況

アクセサッポロでは、年間120件前後の催事が開催されており、稼働率¹は近年80%前後の高水準で推移しています。なお、2019年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により2020年2月中旬以降、展示場利用のキャンセルが相次いだため、稼働率が低下しました。

図表5 開催件数と稼働率



出典：(一財)札幌産業流通振興協会提供資料より作成

(2) アクセサッポロが抱える課題

アクセサッポロは、現在まで主に「展示会・見本市」や「即売会」の会場として、多くの市内企業に利用されてきましたが、開館から37年以上が経過し以下のような課題が顕在化してきています。

| | |
|-----------|---|
| 施設の機能不足 | <ul style="list-style-type: none"> ・大展示場の面積が不足しているため、主催者がやむを得ずイベントの内容を制限したり、開催を断念するケースが相次いでいる。 ・大展示場は完全間仕切り²が不可の構造のため音漏れ等が発生し、同日に複数のイベントを開催することが困難である。 |
| 新規催事の受入困難 | <ul style="list-style-type: none"> ・近年、施設の稼働率は8割を超えており、新規催事が開催できる余地がなく、申込を断らざるを得ない状況にある。 |

機会損失が発生

過去3年間で174件(年平均58件)の催事を断っている状況です。

(2019年度：53件、2018年度：52件、2017年度：69件)

¹【稼働率】年間営業日数に対する実際に利用された日数の割合。

²【完全間仕切り】天井から床まで隙間なく空間を仕切る壁等が設置されていること。

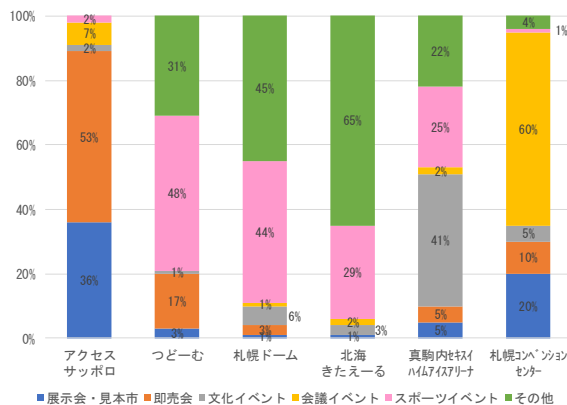
2 札幌市の展示機能を持つ施設の現況

(1) 札幌市の展示施設の利用状況・稼働率

市内各施設の利用状況としては、アクセスサッポロは主に「展示会・見本市」や「即売会」、つどーむは「スポーツイベント」や「即売会」、札幌ドーム、北海きたえーるは「スポーツイベント」、真駒内セキスイハイムアイスアリーナはコンサートなどの「文化イベント」、札幌コンベンションセンターは「会議イベント」として利用されており、催事の種類や規模に応じて、適宜棲み分けされている状況です。

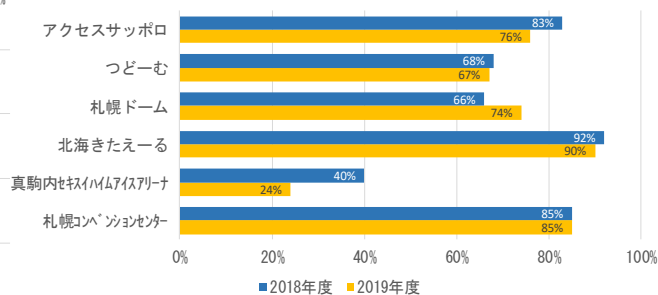
市内各施設の稼働率は、2019年度実績で、北海きたえーるが90%、札幌コンベンションセンターが85%、アクセスサッポロが76%、札幌ドームが74%であり、軒並み高稼働率で推移しています。

図表 6 市内各施設の利用割合



出典：各施設提供資料及びホームページより作成

図表 7 市内各施設の稼働率



出典：各施設提供資料及びホームページより作成

(2) 札幌市の展示施設における課題

市内展示施設を利用している催事主催者に対しヒアリング調査を実施し、札幌市の展示施設における課題を把握しました。主な意見は、以下のとおりです。

【施設の空きに関すること】

- ・市内には展示施設が少なく、会場確保が非常に困難である。
- ・企画展³を開催できる施設が不足している。
- ・1週間以上の長期利用ができる施設が少ない。

【施設の規模・機能に関すること】

- ・札幌市は他都市と比較して、大規模な催事を開催できる施設が少ない。
- ・首都圏等で開催されている展示会の採算を考えた場合、少なくとも1万㎡以上の展示面積が必要である。
- ・完全間仕切り可能な構造が望ましい。
- ・空調や天井高、諸室不足など会場の使い勝手が悪い。
- ・スポーツ施設の展示会利用は床養生のコストが発生するほか、円形の形状をしているため使い勝手が悪い。

3【企画展】テーマや期間を定めて特設する展示会のこと。(例：漫画やアニメのキャラクター展など)

3 アクセスサッポロに対する主催者需要

(1) 展示需要量の見込み

主催者へのアンケートやヒアリング調査から、アクセスサッポロの需要を「既存需要」「逸失需要」「既存拡充・新規需要」「潜在需要」に分類して総展示需要量を把握したところ、合計で年間201件、展示面積に換算して延べ323万㎡程度の需要が判明しました。また、同調査では、展示会の開催における新型コロナウイルス感染症の影響についても確認しましたが、主催者の98%が今後も対面での展示会は維持されると回答しています。

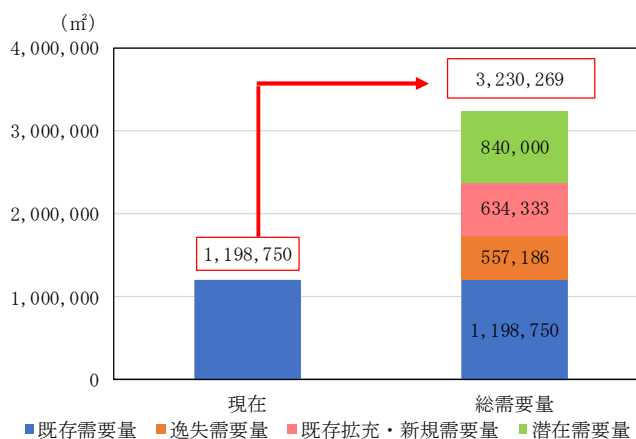
図表 8 総需要量の考え方

| 項目 | 内容 | 件数/年 | 展示面積/年 |
|-------------|--|-------|------------|
| ア 既存需要 | アクセスサッポロの年間開催需要 (2017年度～2019年度の過去3か年平均) | 114件 | 1,198,750㎡ |
| イ 逸失需要 | アクセスサッポロが過去に断った需要 (2017年度～2019年度の過去3か年平均) | 58件 | 557,186㎡ |
| ウ 既存拡充・新規需要 | アンケート調査で判明した既存主催者の催事拡充及び新規催事開催需要 | 20件※ | 634,333㎡ |
| エ 潜在需要 | ヒアリング調査で判明した今後開催が見込める催事の需要 | 19件 | 840,000㎡ |
| 合計 | | 201件※ | 3,230,269㎡ |

※「ウ 既存拡充・新規需要」に計上している催事のうち、既存主催者の拡充希望催事の一部(10件)は、「ア 既存需要」にも計上しているため、合計からは除いている。

なお、「エ 潜在需要」には、食や観光分野における大規模な展示会・見本市、市内のMICE施設では対応できないインセンティブツアー、長期で開催される企画展など、規模が拡大することによって新たに開催が見込める需要を計上しています。

図表 9 アクセスサッポロの総需要量



4 新たな展示場整備の必要性

全国の展示会産業の動向や市内展示施設の現状と課題、主催者需要等の調査結果を踏まえると、札幌市において新たな展示場を整備する必要性が以下のとおり認められます。

(1) 大規模な展示会・見本市の開催

全国的な展示会産業の傾向としては、展示会・見本市の開催件数や来場者数、一人当たりの消費額が増加傾向にあり、今後も成長が見込まれています。

これまで施設規模、機能の点から逸失していた、大規模な展示会・見本市を札幌でも開催していくことで、市内企業の競争力強化のみならず、企業間交流の促進によるイノベーションの創出、地域への経済効果の波及、都市のブランド力や競争力の向上などといった様々な効果が期待できます。

(2) 既存主催者の催事需要への対応

アクセスサッポロをはじめ札幌市内の展示施設は軒並み高稼働率であり、展示会・見本市や即売会といった催事を中心に多くの機会損失が発生している状況です。

このような既存主催者の催事拡充ニーズや新たな催事の開催希望に対応することは、市内企業の販路開拓やマーケティング機会の創出に繋がるものであり、札幌市の経済活性化に大きく寄与します。

(3) 新たな催事ニーズへの対応

主催者ヒアリングから、札幌市内には長期利用が可能な施設が限られているため、恐竜展といった教育・文化振興に資する催事やアニメの企画展といったエンターテインメント性の高い催事の開催機会を逸失していることが明らかになりました。

全国のイベント消費規模は年々増加しており、これらの需要を取り込むことで札幌の経済活性化はもとより、豊かな市民生活の実現にも寄与することが期待されます。

(4) アクセスサッポロ用地の活用

アクセスサッポロが立地する大谷地流通業務団地は、造成から50年以上が経過し施設の老朽化が進行しているほか、施設の多機能化や大型化のニーズへの対応が必要な状況にあり、団地内における土地の確保は喫緊の課題となっています。

しかし、団地内には未利用地が無く施設更新は十分に進んでいないことから、アクセスサッポロ用地を立地企業の建替用地として活用することが必要です。

現在のアクセスサッポロでは調査で判明した需要に対応することは困難であり、大谷地流通業務団地の再編を進めるためにもアクセスサッポロ用地の活用が不可欠であることから、これらのニーズに対応し札幌の経済活性化を力強く推進するためには、アクセスサッポロを移転させて新たな展示場を整備することが必要です。

第3章 施設の整備方針

1 施設のコンセプト

本施設は、「第2章 4 新たな展示場整備の必要性」のとおり、展示会等の開催を通じて札幌の経済活性化を力強く推進する産業振興の役割を期待するものです。

また、今後新たに整備される公共施設には、施設の多機能化や災害時における活用等の視点も求められます。

これらを踏まえ、以下のとおり4つのコンセプトを設定しました。

(1) 北海道・札幌の経済をリードする新たな「産業交流拠点」

- 札幌の経済を牽引する産業の展示会・見本市を積極的に誘致・開催し、企業の販路拡大やマーケティングの機会を創出することで、市内・道内企業の競争力強化を図るとともに、企業間の活発な交流を通じて北海道全体の産業のイノベーションを促進します。
- 市内 MICE 施設における誘致困難な需要を獲得するなど、その機能を補完することで、外からヒト・モノ・情報を呼び込み、周辺産業への経済波及効果を誘発します。

(2) 豊かな都市文化を育む「賑わい創造拠点」

- 多種多様なイベントが開催されることで、市民が最先端の技術や創造的なコンテンツ、サービスに接する機会を創出するとともに、これらのイベントを通じて様々な人が集い新たな交流が生まれます。
- 展示場に付帯する会議室やホワイエ⁴などを、地域住民はもとより市民の交流や活動の場として開放することで、市民活動が一層活性化します。
- 周辺施設と相乗効果を発揮して、地域に新たな賑わいを創出します。

(3) 地域の安心・安全を支える「防災拠点」

- 展示場利用者の安全を確保する観点から、耐震化を図るなど災害に強い施設とするほか、展示場が有する大規模な空間を活かし、災害時には地域住民の避難場所等として活用することを視野に入れ、必要な機能を備えた施設を目指します。

(4) 新たな時代を見据えたデジタル技術や環境基準に対応した展示場

- 最新のデジタル技術等を活用した新たな催事のニーズにも対応できる展示場とします。
- 温室効果ガスの排出削減や ZEB-Oriented⁵ 以上の省エネルギー性能を目指し、SDGs に対応した環境配慮型の展示場とします。¹

4 【ホワイエ】 入口から展示ホールや諸室等までの広い通路や広間。

5 【ZEB-Oriented】 ZEB とは、「Net Zero Energy Building (ネット・ゼロ・エネルギー・ビル)」の略。ビルの断熱性能・省エネ性能を上げ、それに太陽光発電などでエネルギーを創ることにより、年間の消費エネルギー量の収支を実質ゼロにするビルのこと。消費エネルギー量の削減度合いごとに指標が分類され、「ZEB-Oriented」とは、延べ床面積 10,000 ㎡以上の建築物において、事務所・学校・工場は 40%以上、ホテル・病院・百貨店・飲食店・集会所は 30%以上の省エネ率が基準となる。

2 施設規模

「第2章3（1） 展示需要量の見込み」において整理した需要に適した展示面積を検討した結果、15,000 m²の展示面積が適正であると評価しました。

展示面積が15,000 m²の場合、面積稼働率⁶にして60%程度となり、調査で判明した需要を全て取り込みつつ、想定外の新規需要にも対応が可能であり、安定的な運営を見込むことができます。

図表 10 面積稼働率の評価

| 展示面積 (m ²) | 面積稼働率 (%) | 評価 |
|------------------------|-----------|--|
| 5,000 | 約 180% | ・ 需要を取り込むことができない。 |
| 10,000 | 約 90% | ・ アクセスサッポロの利用実績を踏まえると、面積稼働率 60%台後半が上限と考えられることから、調査で判明した需要を全て取り込むことが困難と想定される。 |
| 15,000 | 約 60% | ・ 調査で判明した需要を全て取り込みつつ、新たな需要にも対応可能であり、安定した経営を見込むことができる。 |
| 20,000 | 約 45% | ・ 面積稼働率が 45%となり、損益分岐稼働率に近くなるため、経営が不安定になるおそれがある。 |

また、展示場に付随する諸室（エントランスホール、会議室等）については、本施設と同規模の展示面積を有する他都市施設における「展示面積に対する各諸室面積の割合」を参考に、以下のとおり面積を導出し、本施設の延床面積を約 25,000 m²としました。

図表 11 展示場に付随する諸室の面積

| 諸室 | 主な役割・機能 | 面積 |
|---------------------|--|------------------------|
| エントランスホール (ホワイエ) | <ul style="list-style-type: none"> ・ 来場者等の滞留空間 ・ 飲食及び休憩スペース ・ 開会式等のセレモニースペース ・ 地域住民や市民の交流・活動の場 | 約 3,000 m ² |
| 会議室等 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 展示会と併催するセミナー等の開催 ・ 大規模会議及び地域住民等の集会の開催 ・ 企業間の商談スペース ・ 各種打ち合わせスペース ・ 主催者スタッフ等の控室 | 約 1,400 m ² |
| その他 | 事務室、パントリー ⁷ 、機械室 など | 約 5,600 m ² |

※現時点での検討であり、今後、詳細な検討結果によって変更される可能性がある。

6【面積稼働率】年間で使用できる総展示面積（営業日数×展示面積）に対する、実際に利用した面積の割合。

7【パントリー】展示会に出品する商品等の簡易的な調理等が可能なキッチン及び作業スペース。

第4章 整備予定地

1 候補地の検証

「第3章 2 施設規模」で整理したとおり、新展示場は展示面積 15,000 m²、延床面積 25,000 m²程度の規模とし、想定される催事内容に見合った十分な駐車台数を確保することを踏まえると、最低でもアクセスサッポロの敷地面積を上回る土地が必要です。

この条件に合致した市有地としては、平成 31 年度に札幌市が北海道から取得した「旧北海道立産業共進会場用地エリア」が挙げられます。

本章ではアクセスサッポロが立地している「大谷地流通業務団地エリア」と「旧北海道立産業共進会場用地エリア」の2つの候補地で比較を行うことで、「旧北海道立産業共進会場用地エリア」の整備候補地としての適性について検証を行います。

| エリア | 大谷地流通業務団地 | 旧北海道立産業共進会場用地 |
|------|-----------------------|--------------------------|
| 所在地 | 白石区流通センター4丁目、7丁目 | 豊平区月寒東3条11丁目 |
| 敷地面積 | 49,961 m ² | 79,088.77 m ² |

2 整備候補地の評価及び選定

アクセスサッポロ用地での現地建替と旧北海道立産業共進会場用地での移転建替について、整備費用・利用者の利便性・整備の効率性・周辺環境の状況・土地の高度利用の観点から比較し、評価しました。

これらの評価を総合的に勘案すると、旧北海道立産業共進会場用地に整備した場合、アクセスサッポロ用地に整備するよりも低廉な費用で利用者にとって利便性の高い施設が整備でき、大谷地流通業務団地の高度化にも寄与することが期待できます。

また、札幌市において、新展示場の整備に相応しい土地は他にないことから、旧北海道立産業共進会場用地への移転建替を前提として検討を行うこととします。

図表 12 予定地現況（旧北海道立産業共進会場用地）



出典：地理院タイルに追記して作成

第5章 施設計画

1 諸室構成及び諸室整備計画

- ・ 展示ホールは、展示面積 15,000 m²の無柱空間とし、延床面積 25,000 m²程度を確保します。
- ・ セミナーや商談、待機室等の需要も満たせるように大会議室・多目的室等を整備します。
- ・ エントランスホール等、十分な規模の滞留空間についても確保し、展示会等の開催の円滑化に配慮します。



図表 13 施設諸元

| | 室名 | 面積 | 室数 |
|------|----------------|-------------------------|------------|
| 展示場 | 展示ホールA～D | 約 10,000 m ² | 1室 (4分割可能) |
| | 展示ホールE～G | 約 5,000 m ² | 1室 (3分割可能) |
| | エントランスホール | 約 3,000 m ² | — |
| 会議室等 | 大会議室 | 約 400 m ² | 1室 |
| | 多目的室 | 約 400 m ² | 1室 |
| | 会議室 1 | 約 400 m ² | 1室 (4分割可能) |
| | 会議室 2 | 約 50 m ² | 4室 |
| その他 | 事務室、パントリー、機械室等 | 約 5,600 m ² | — |

※現時点での検討であり、今後、詳細な検討結果によって変更される可能性がある。

2 配置計画

主催者の意向や他都市の先行事例等を基に、エントランスホールを挟んで展示ホールを向合せとすることで、大規模催事の際に施設を一体的に活用できる配置を想定するとともに、駐車場や歩行・車両動線等についても十分に確保できるよう、以下のモデルプランを作成しました。

図表 14 配置計画イメージ



3 動線・交通計画

催事開催時における自動車交通量を推計の上で、構内動線の工夫、駐車場出入口の分散配置、周辺地下鉄駅（南郷 13 丁目駅や福住駅など）からのシャトルバス活用による公共交通利用促進など、周辺への交通負荷抑制に向けて必要な施策を検討します。

第6章 事業手法及び概算建設工事費

1 事業手法の検討

「札幌市 PPP/PFI 優先的検討指針」を踏まえ、PPP/PFI 手法⁸の導入検討を実施することとし、新展示場の整備・運営等の手法として相応しいと考えられる DB+指定管理方式、PFI (BT0) 方式及び公設公営手法を検討の対象としました。また、施設整備期間を3年程度、施設の維持管理・運営期間を15年程度と設定します。

※2030年冬季オリンピック・パラリンピックの招致が決定した場合は、新展示場が国際放送センター(IBC)として使用されることが予定されていますので、その場合には、実質的な維持管理・運営期間は短くなると想定しています。

図表 15 検討対象事業手法

| 事業手法の名称 | | 特徴・概略 | 公民の役割分担 | | | | |
|-------------------|---|--|----------|----------|----|----------|----------|
| | | | 設計 建設 | 維持 管理 | 運営 | 資金 調達 | 施設 保有 |
| PPP/ PFI 手法 | DB (Design Build) +指定管理 方式 | <ul style="list-style-type: none"> 公共が資金調達し、民間が施設を整備。 完成した施設の維持管理・運営等の業務は指定管理者を5年ごとに公募・選定して実施する。 | 民 | 民 | 民 | 公 | 公 |
| | PFI (BT0) 方式 (Build Transfer Operate) | <ul style="list-style-type: none"> 民間が主体的に資金調達を行い、施設を整備。 施設完成時に、公共への施設所有権の移転を行う。 民間は事業期間中に維持管理・運営を行い、資金を回収。 | 民 | 民 | 民 | 民 (公) | 公 |
| (参考) 公設公営手法 | | <ul style="list-style-type: none"> 公共が資金調達を行う。 完成した施設の維持管理・運営等の業務を自らが直接実施する、または各業務を個別に単年度の期間で民間に委託する。 | 公 | 公 | 公 | 公 | 公 |

8【PPP/PFI 手法】 公民が連携して公共サービスの提供を行う事業手法のこと。

2 概算建設工事費

| | 公設公営手法 | DB+指定管理方式、PFI (BT0) 方式 |
|------------------------------|-------------|------------------------|
| 建設工事費合計 (駐車場・外構費 等を含む) | 160 億円 (税抜) | 153 億円 (税抜) |

※ 建設工事費には、設計費・工事監理費等は含んでいない。

※ 建設工事費は現時点での概算額であり、変更になる可能性がある。

3 想定される運営収支

| | 公設公営、DB+指定管理方式 | PFI (BT0) 方式 |
|-------------------|----------------------|----------------------|
| 収入 (展示場運営等) | 約 5 億 7 千万円 (税抜) / 年 | 約 6 億 1 千万円 (税抜) / 年 |
| 支出 (運営費・維持管理費) | 約 3 億 6 千万円 (税抜) / 年 | 約 3 億 3 千万円 (税抜) / 年 |

4 定量評価 (VFMの算定)

VFMは、Value for Money (支払い (Money) に対して最も価値の高いサービス (Value) を供給するという考え方) の略で、公設公営手法と比べて PPP/PFI 手法が総事業費をどれだけ削減できるかを示す割合のことです。

■ VFM の算定結果

前述の条件設定をもとに現在価値ベースでの公共負担額を算出したところ、DB+指定管理方式で 5.5%、PFI (BT0) 方式で 7.9%といずれの手法においても VFM の発現が確認できました。

5 定性評価

展示場の運営を想定した場合における定性評価の評価結果は下表のとおりです。

図表 16 定性評価結果 [優… ◎ > ○ > △ > ▲ … 劣]

| 評価の視点 | 公設公営手法 | DB+指定管理方式 | PFI (BT0) 方式 |
|---------------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|
| 運営ノウハウの発揮 | ○ | ○ | ○ |
| 運営等の視点の設計への反映 | ▲ | ▲ | ◎ |
| 付加価値を創出する取組 | △ | △ | ◎ |
| 事務手続等の簡素化 | ▲ | ○ | ○ |
| 事業条件変更の柔軟性 | ○ | ○ | ▲ |
| リスク分担の妥当性 | ▲ | ○ | ◎ |
| 事業者の参画意欲 | △ | ◎ | ◎ |
| 結果 | ◎ : 0 ○ : 2 △ : 2 ▲ : 3 | ◎ : 1 ○ : 4 △ : 1 ▲ : 1 | ◎ : 4 ○ : 2 △ : 0 ▲ : 1 |

6 総合評価

本事業においては定性・定量評価ともに最も優れた結果となったPFI（BT0）方式による事業化を進めることとします。

また、新展示場の運営にあたっては、アクセスサポロを管理・運営する（一財）札幌産業流通振興協会がこれまで実施してきた展示会等の誘致・開催支援や自主企画の立案等のノウハウ、全国の主催者及び展示会関連企業等との豊富なネットワーク等を十分に活用することが重要です。

このことから、新展示場の運営には（一財）札幌産業流通振興協会が関与することを基本としつつ、施設コンセプトの実現に向けた団体のあり方や望ましい運営体制について、引き続き検討していきます。

第7章 施設整備の効果

新展示場の運営・催事開催が札幌市にもたらす経済波及効果（生産誘発額）は、約508億円／年となり、うち、主催者・出展者・来場者による直接効果は約324億円と見込まれます。

また、雇用誘発効果は約5,255人／年、税収効果は約16億円／年と推計されます。

図表 17 新展示場の運営・催事開催が市にもたらす効果

| | 効果（年あたり） |
|---------------|----------|
| 経済波及効果（生産誘発額） | 約508億円 |
| 雇用誘発人数 | 約5,255人 |
| 税収効果 | 約16億円 |

第8章 事業スケジュール

| 2021年度 (R3年度) | 2022年度 (R4年度) | 2023年度 (R5年度) | 2024年度 (R6年度) | 2025年度 (R7年度) | 2026年度 (R8年度) |
|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|
| 基本計画 策定 | 要求水準 等検討 | 事業者 選定 | 設計・施工 | | 供用開始 |

※本スケジュールは予定であり、今後の検討状況等によっては変更もありうる。

(仮称) 新展示場整備基本計画【概要版】

令和4年(2022年)3月発行

編集・発行

札幌市経済観光局国際経済戦略室経済戦略推進課

〒060-8611 札幌市中央区北1条西2丁目

TEL 011-211-2481 FAX 011-218-5130

URL <https://www.city.sapporo.jp/keizai/tenjijo/keikaku.html>

市政等資料番号

01-H01-22-682

SAPPORO